YAMAHA

J

A-S3000

プリメインアンプ



ヤマハ AV 製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前に取扱説明書と「安全上のご注意」、保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■ 保証書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

取扱説明書

保証書別添付

生命を吹き込む

弾き手の心を映し出すピアノは高度な技術力と人の芸術的感性が
美しく調和して生まれます。

ピアノに楽器としての命を吹き込む最終工程が「整音」と呼ばれる
作業です。

熟練した技術者が一音一音に全神経を集中し、弦を打つハンマーの
硬さや弾力を微妙に調整することで 88 の鍵盤すべての音色と
響きを完璧な状態に揃えていく、息の詰まるような時間。
研ぎ澄まされた人間の感性が音を決めています。それはオーディオ
機器でも何ら変わりません。試聴を重ね、あらゆる構成要素を
入念に検討し、設計者が描く理想の音へ一歩、また一歩と
近づいていくのです。

125 年以上、音と歩んできたヤマハの伝統が、すべてのヤマハ
オーディオ機器に息づいています。



オーディオの歩み

1920-1960s

1922 年：高級手巻蓄音機を世に出す

1955 年以来、数々のハイファイ機器（レコードプレーヤー、チューナー、プリメインアンプ、コントロールアンプ、パワーアンプやスピーカー）を発売

NS-20 モニタースピーカー


NS-20


CA-1000

1970s

CA-1000 プリメインアンプ
A クラス動作プリメインアンプのスタンダード

NS-690 ナチュラルサウンドスピーカー

NS-1000M モニタースピーカー
ハイファイファンに現在でも愛される伝説のスピーカー


NS-690


NS-1000M

B-1 パワーアンプ
全段に縦型 FET を採用した革新的なパワーアンプ

C-2 コントロールアンプ
ミラノ国際音楽ハイファイショーで最高賞を受賞


B-1


C-2

NS-10M スタジオモニタースピーカー
世界で最も普及したスタジオモニター

A-1 プリメインアンプ

PX-1 レコードプレーヤー
ヤマハ初のリニアトラッキング式レコードプレーヤー


PX-1


NS-10M

1980s

B-6 パワーアンプ
X 電源、X アンプ搭載のピラミッド型パワーアンプ

GT-2000/L レコードプレーヤー
GT 思想を具現化した超精密重量級プレーヤー

CD-1 初の CD プレーヤー発売
（1983 年）


B-6


GT-2000

B-2x パワーアンプ

MX-10000 パワーアンプ、CX-10000 コントロールアンプ
セパレート機器の能力の定義を変えたアンプ
100 周年記念モデル

AX-2000 プリメインアンプ
128dB の高 S/N 比、デジタルダイレクト機能搭載


AX-2000


GT-CD1

1990s

GT-CD1 CD プレーヤー
一体型セパレート構造を持つトップエントリー式プレーヤー

MX-1 パワーアンプ、CX-1 コントロールアンプ


A-S2000

2000s

Soavo-1、Soavo-2 ナチュラルサウンドスピーカーシステム

A-S2000 プリメインアンプ、CD-S2000 スーパーオーディオ CD プレーヤー


CD-S2000

2010s

NP-S2000 ネットワークプレーヤー


Soavo-1


NP-S2000

A-S3000

◆ フローティング・バランス回路設計によりアナログアンプの能力をフルに発揮させることに成功

完璧な対称性を実現した全く新しいフローティング・バランス・パワーアンプによって、入力端子からスピーカー端子まで完全なバランス伝送（増幅）が可能になりました。

◆ フルバランス伝送

高出力、高品質なサウンドテクスチャーと傑出した S/N 性能を組み合わせた、フルバランス伝送を行なうプリメインアンプです。

◆ パラレル・ボリューム＆トーンコントロール

◆ 独立４回路の大容量電源

◆ 左右対称設計

◆ 完全ディスクリート構成のフォノアンプ

◆ ローインピーダンス駆動の高性能ヘッドホンアンプ

■ 付属品

同梱されている付属品をご確認ください。

- リモコン
- 単 4 乾電池（2 本）
- 電源コード
- 安全上のご注意（別冊）

もくじ

各部の名称と機能 6
接続 16
仕様 24
故障かな？と思ったら 28

■ 本書の記載について

- 「ご注意」では操作をするときの留意すべき事項、☼ では知っておくと便利な補足情報が記載されています。
- 写真はイメージです。実際とは異なります。
- 本機をご使用になる前に、別冊の安全上のご注意を必ずお読みください。

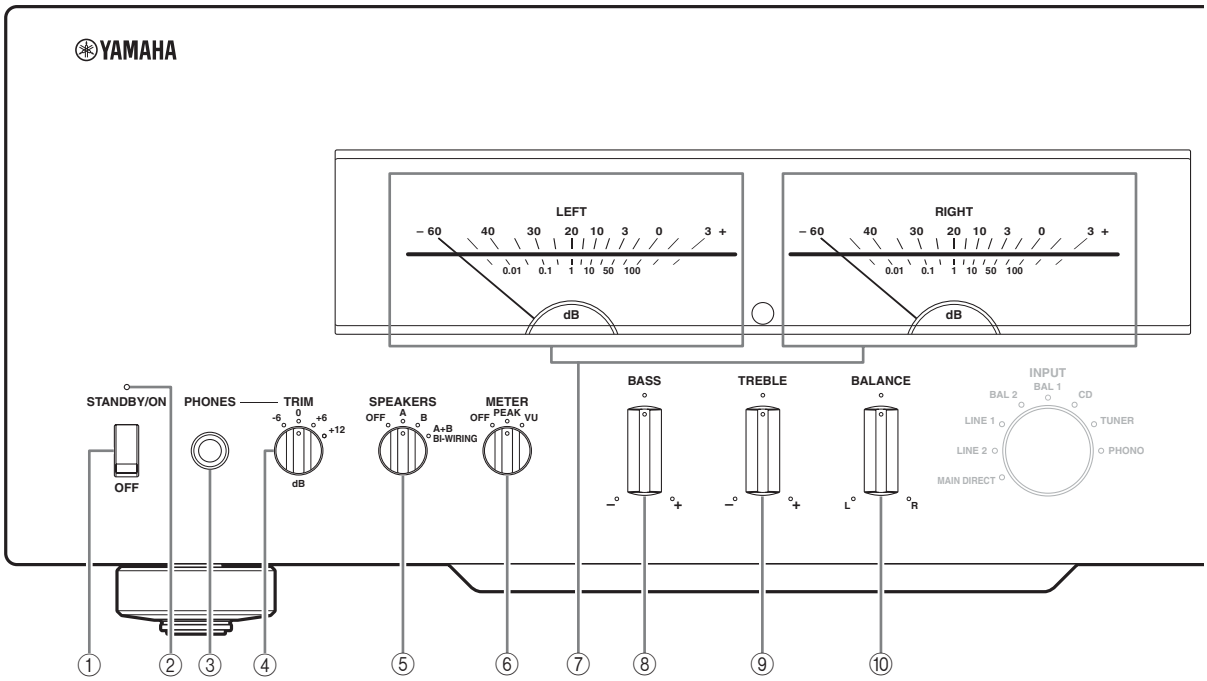
A-S3000
各部の名称と機能

この章では、フロントパネル、リアパネル、リモコンの各部の名称および機能について説明しています。



各部の名称と機能

■ フロントパネル（6 ～ 9 ページ）



① STANDBY/ON/OFF（電源）スイッチ

本機の電源の ON（オン）/OFF（オフ）を切り替えます。

STANDBY/ON（上側）：
リモコンの ⏻AMP キーで STANDBY（スタンバイ）と ON を切り替えます。

OFF（下側）：
本機を OFF にします。

ご注意

- 本機の電源を ON にしてから音声が再生されるまでに数秒かかります。
- STANDBY 状態で電源プラグをコンセントから抜き、再度差し直すと電源が ON になります。長期間本機を使用しない場合は、電源スイッチを OFF にしてください。

② STANDBY/ON（電源）インジケーター

点灯：
本機の電源が ON の状態を示します。リモコンの ⏻AMP キーで本機を STANDBY 状態に切り替えることができます。

暗い点灯：
本機が STANDBY の状態を示します。この点灯のとき、リモコンの ⏻AMP キーを押すと本機が ON になります。

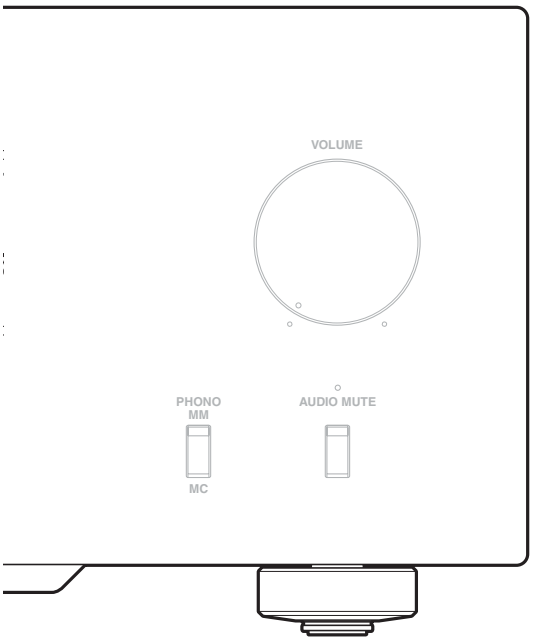
消灯：
電源が OFF の状態を示します。
本体フロントパネルの STANDBY/ON/OFF（電源）スイッチのみ電源を ON にできます。

③ PHONES 端子

ヘッドホンで音楽を楽しむための信号を出力します。

ご注意

- ヘッドホンを接続すると本機の状態は次のようになります。
  - SPEAKERS L/R CH 端子に接続されたスピーカーからは音は出ません。
  - PRE OUT 端子からは信号が出力されなくなります。
  - 入力ソースとして MAIN DIRECT を選択できなくなります。
- 入力ソースとして MAIN DIRECT が選ばれているときにヘッドホンを PHONES 端子に接続しても、PHONES 端子からは信号が出力されません。



④ **TRIM（トリム）セレクター**

ヘッドホンアンプのゲインを切り替え、PHONES 端子から出力される音声とスピーカーから出力される音声の音量バランスを調整します。

コントロール範囲：− 6 dB、0 dB、+6 dB、+12 dB

⑤ **SPEAKERS（スピーカー）セレクター**

リアパネルの SPEAKERS L/R CH A と B 端子に接続されたスピーカーをオン／オフします。

- OFF に切り替えると、スピーカーを両組ともオフします。
- A または B に切り替えると、SPEAKERS L/R CH A または B 端子のどちらかに接続された組のスピーカーのみをオンします。
- A+B BI-WIRING に切り替えると、スピーカーを両組ともオンします。

重要

2組のスピーカー（A+B）を使用する場合は、インピーダンスが8 Ω 以上のスピーカーをお使いください。

⑥ **METER（メーター）セレクター**

メーターの表示を OFF/PEAK/VU に切り替えます。

OFF（オフ）：

メーターの動作と照明をオフにします。

PEAK（ピーク）：

メーターの動作をピークレベルメーターにします。ピークレベルメーターは、音声出力の瞬間最高レベルを表示します。

VU：

メーターの動作を VU レベルメーターにします。VU（Volume Unit）レベルメーターは、音声出力の実効値を表示し、人間の感覚に近い値を表示します。

⑦ **メーター表示（LEFT/RIGHT（レフト ライト））**

LEFT（左）チャンネルと RIGHT（右）チャンネルの音声出力レベルを、VU または PEAK（ピーク）で表示します。
VU と PEAK は METER セレクターで切り替えてください。

⑧ **BASS（バス）（低音）つまみ**

低音特性を増減します。0 の位置でフラットになります。

コントロール範囲：− 10 dB ～ +10 dB

⑨ **TREBLE（トレブル）（高音）つまみ**

高音特性を増減します。0 の位置でフラットになります。

コントロール範囲：− 10 dB ～ +10 dB

⑩ **BALANCE（バランス）つまみ**

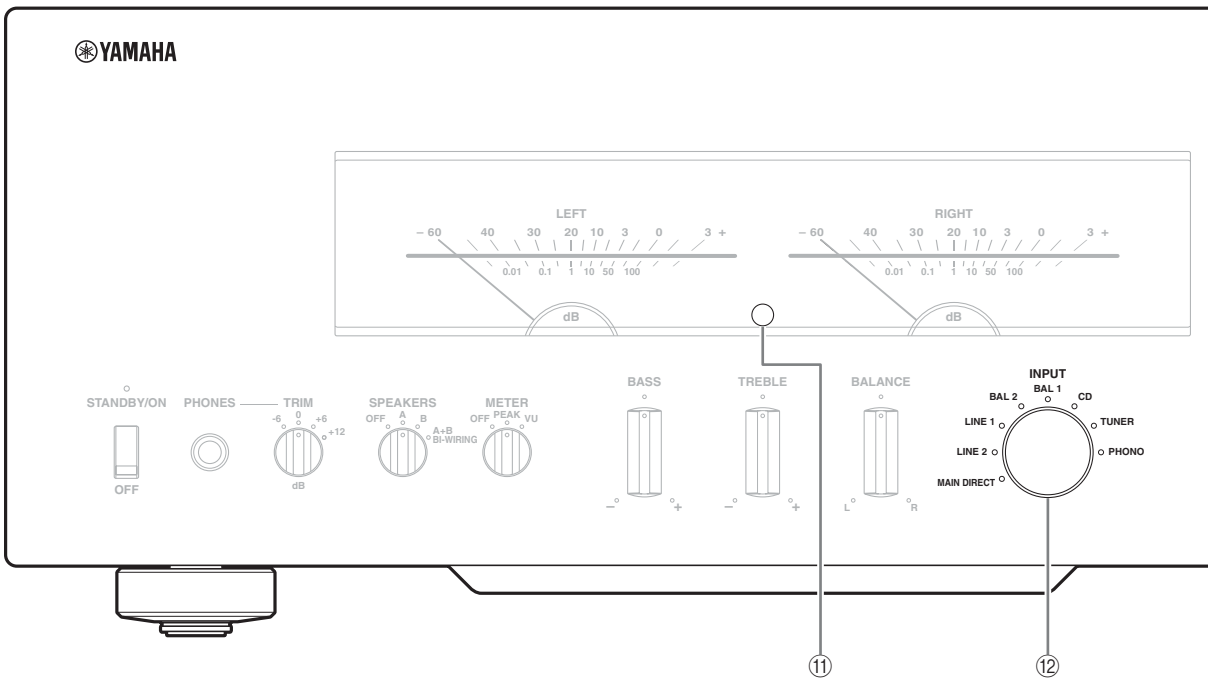
左右のスピーカーのオーディオ出力バランスを調整することで、スピーカーの位置や室内の条件による音のアンバランスを補正します。

ご注意

- BASS と TREBLE を両方 0 にセットすると、オーディオ信号はトーンコントロール回路をバイパスします。
- BASS と TREBLE、BALANCE は、MAIN IN 端子の入力信号と LINE 2 REC 端子の出力信号に設定できません。

各部の名称と機能

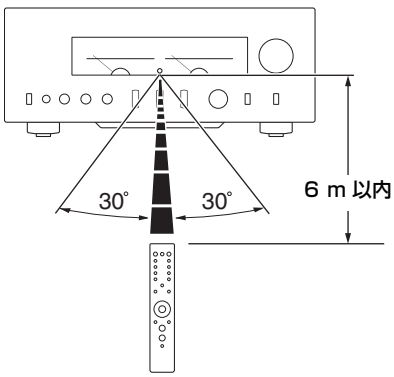
■ フロントパネル（6 ～ 9 ページ）



⑪ リモコン受光部

リモコンの信号を受信します。

リモコンは指向性のある赤外線を送信します。リモコンは必ず本体のリモコン受光部に向けて操作してください。



⑫ INPUT（入力）セレクター／インジケーター

再生するソースを選択します。INPUT セレクターで選んだ入力ソースのインジケーターが点灯します。

選択した入力ソースのオーディオ信号はLINE 2 REC 端子にも出力されます。

MAIN DIRECT：MAIN IN 端子に接続された機器を選択します。入力ソースに MAIN DIRECT を選択すると、PRE OUT、LINE 2 REC、PHONES の各端子からはオーディオ信号が出力されません。

LINE 1/LINE 2：LINE 1 または LINE 2 端子に接続された機器を選択します。

BAL1/BAL 2：BAL 1 または BAL 2 端子（バランス XLR 端子）に接続された機器を選択します。

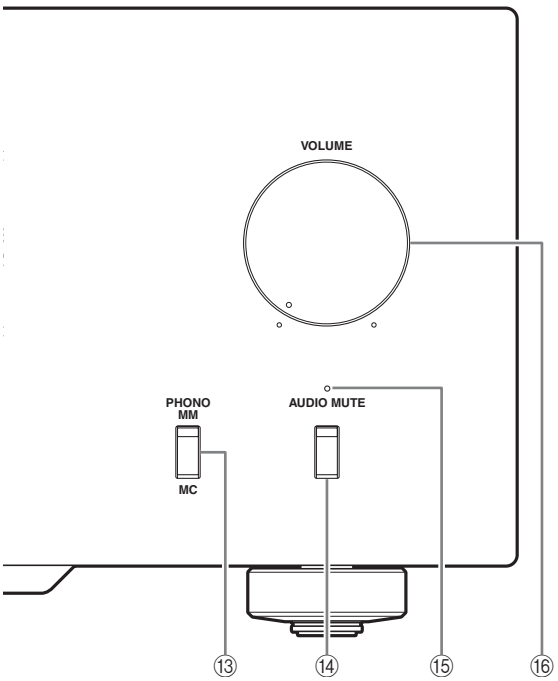
CD：CD 端子（アンバランス RCA 端子）に接続された CD プレーヤーを選択します。

TUNER：TUNER 端子に接続されたチューナーを選択します。

PHONO：PHONO 端子に接続されたレコードプレーヤーを選択します。

ご注意

LINE 2 を選択している間は、LINE 2 REC 端子からオーディオ信号が出力されません。



⑬ PHONO（フォノ）スイッチ

リアパネルの PHONO 端子に接続されたレコードプレーヤーのカートリッジの種別を選択します。

- 接続したレコードプレーヤーが MM カートリッジを使用している場合は、MM にします。
- 接続したレコードプレーヤーが MC カートリッジを使用している場合は、MC にします。

カートリッジを交換する際は、本機の電源を必ず OFF にしてください。

⑭ AUDIO MUTE（オーディオ ミュート）スイッチ

下方向に押し下げると、音量が現在のレベルから約 20dB 低下します。再度押し下げると音量はもとのレベルに戻ります。

フロントパネルの VOLUME コントロールを回すかリモコンの VOLUME +/ −キーを押すと、ミュート機能は解除されます。

⑮ AUDIO MUTE（オーディオ ミュート）インジケーター

AUDIO MUTE スイッチでミュート機能をオンにすると、AUDIO MUTE インジケーターが点灯します。

⑯ VOLUME（ボリューム）（音量）コントロール

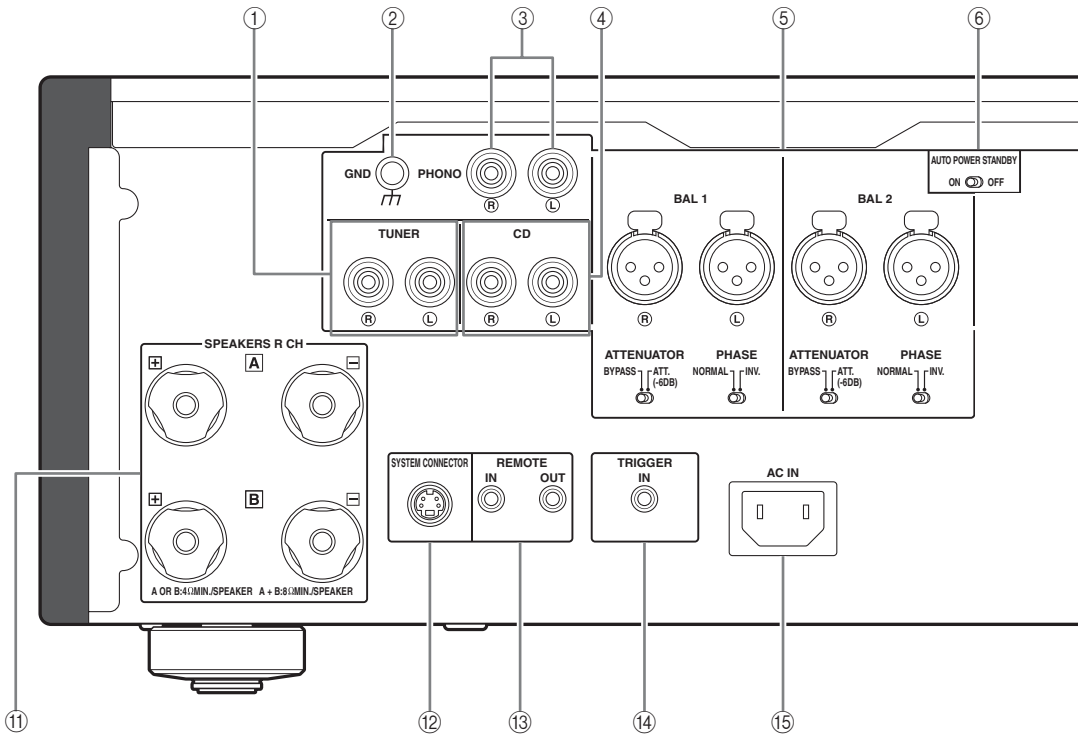
音量レベルを調節します。この調節は LINE 2 REC 端子からの出力レベルには影響しません。

ご注意

入力ソースに MAIN DIRECT を選択しているときは、本機の VOLUME 調節は音量に影響しません。この場合の音量は、MAIN I 端子に接続された外部アンプ側で調節してください。

各部の名称と機能

■ リアパネル



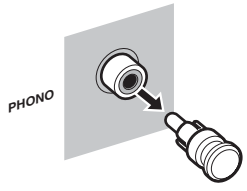
接続に関しては 16 ページをご覧ください。

① **TUNER（チューナー）入力）端子**

② **GND（アース）端子**

③ **PHONO（フォノ入力）端子**

ショートピンが取り付けられています。
PHONO 端子に外部機器を接続するときは、ショートピンを取り外してください。



注意

- 外したショートピンを誤ってお子様が飲み込むおそれがありますのでご注意ください。
- PHONO 端子を使用しないときは、ノイズの混入を防ぐためにショートピンを取り付けてください。
- ショートピンは、REC または PRE OUT 端子に取り付けないでください。故障の原因となります。

④ **CD（CD 入力）端子**

⑤ **BAL1/BAL 2（バランス入力）端子**

2 系統のバランス入力端子を装備しています。
それぞれの端子に接続する再生機器に合わせて、ATTENUATOR スイッチ、PHASE スイッチを切り替えてください。切り替えについて、詳しくは 20 ページをご覧ください。

⑥ **AUTO POWER STANDBY スイッチ**

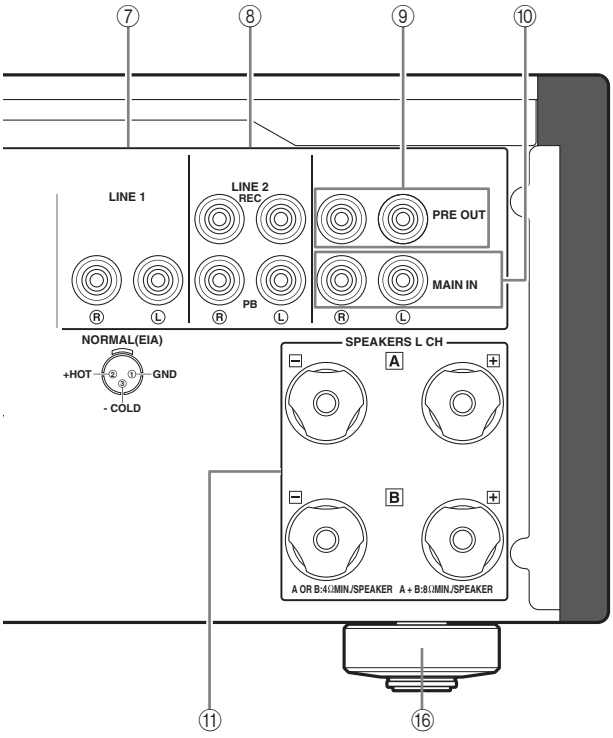
ON：
電源が ON のとき、何も操作されない状態が 8 時間続いた場合、本機は自動的に STANDBY になります。

OFF：
自動的に STANDBY になりません。

⑦ **LINE 1（ライン 1 入力）端子**

⑧ **LINE 2（ライン 2）端子**

PB（再生入力）端子と REC（録音出力）端子を装備しています。



⑨ PRE OUT（プリアウト）端子

- PRE OUT 端子から出力される信号は、SPEAKERS L/R CH 端子に出力される信号と同じチャンネルの信号です。
- 外部アンプでスピーカーを駆動するために PRE OUT 端子にステレオピンケーブルを接続する場合は、SPEAKERS L/R CH 端子を利用する必要はありません。
- PRE OUT 端子から出力される信号に対しても、BASS と TREBLE の設定は有効です。

⑩ MAIN IN（メイン イン）端子

音量調節機能のある外部機器を接続することができます。

ご注意

本機の入力ソースに MAIN DIRECT を選択している場合、音量は固定となります。音量は、MAIN IN 端子に接続された外部アンプ側で調節してください。

MAIN IN 端子の接続は、16、17 ページをご覧ください。

⑪ SPEAKERS L/R CH（スピーカー左右チャンネル）端子

⑫ SYSTEM CONNECTOR（システム コネクター）端子

製品検査用の端子です。

⑬ REMOTE IN/OUT（リモート イン アウト）端子

リモート機能に対応する外部機器を接続することができます。
リモート機能対応機器との接続は、21 ページをご覧ください。

⑭ TRIGGER IN（トリガー イン）端子

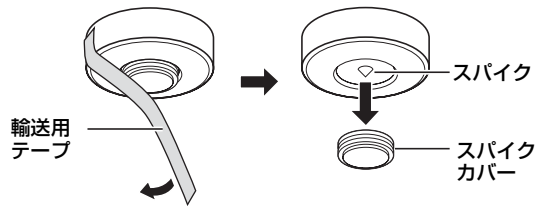
トリガー機能に対応する外部機器を接続することができます。
トリガー機能対応機器との接続は、22 ページをご覧ください。

⑮ AC IN 端子

付属の電源コードを接続します。
電源コードの接続については、19 ページをご覧ください。

⑯ 脚

本機の脚にはスパイクが内蔵されています。スパイクを使用すると本機に対する振動の影響を減少できます。スパイクを利用するには、輸送用テープを取り外してから、磁石式のスパイクカバーを取り外してください。



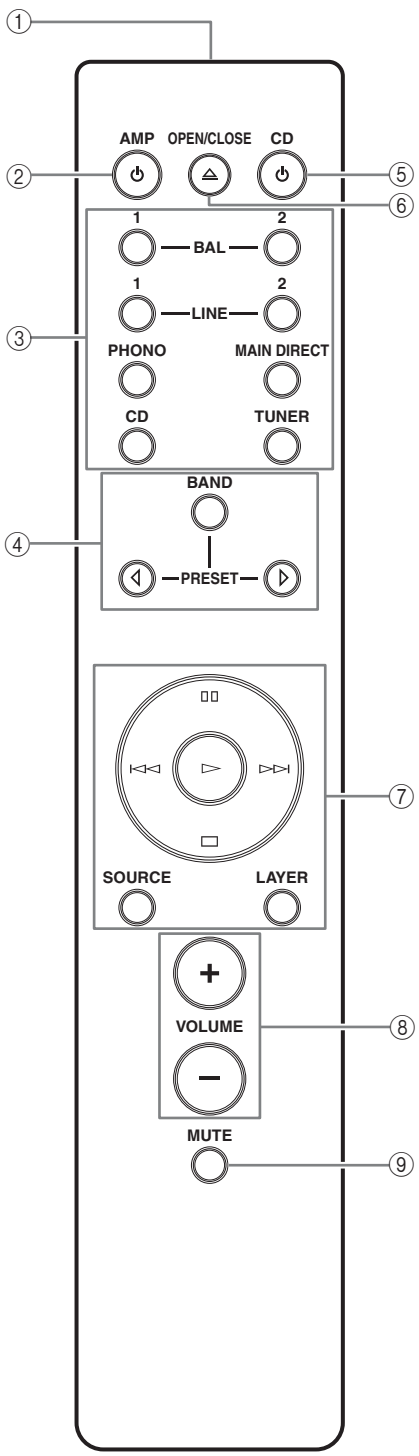
重要

脚に内蔵されたスパイクを利用すると、本機を設置した棚または床が傷つくことがあります。そのようなおそれがある場合は、スパイクカバーまたはお手持ちの保護材をご使用ください。

- 本機が不安定な場合には、脚を回して高さを調整できます。

各部の名称と機能

■ リモコン



① **赤外線信号送信部**

本体に向かって赤外線信号を送信します。

② **⏻ AMP（アンプ）キー**

本機の電源を ON と STANDBY で切り替えます。
STANDBY について詳しくは、「フロントパネル」（6 ページ）をご覧ください。

③ **入力選択キー**

再生する入力ソースを選択します。
選択した入力ソースのオーディオ信号はLINE 2 REC 端子にも出力されます。

LINE 2 を選択しているときは、LINE 2 REC 端子からオーディオ信号が出力されません。

BAL（バランス）：BAL 1 または BAL 2 端子（バランス XLR 端子）に接続された機器を選択します。

LINE（ライン）：LINE 1 または LINE 2 端子に接続された機器を選択します。

PHONO（フォノ）：PHONO 端子に接続されたレコードプレーヤーを選択します。

MAIN DIRECT（メインダイレクト）：MAIN IN 端子に接続された機器を選択します。入力ソースに MAIN DIRECT を選択すると、PRE OUT、LINE 2 REC、PHONES の各端子からはオーディオ信号が出力されません。

CD：CD 端子（アンバランス RCA 端子）に接続された CD プレーヤーを選択します。

TUNER（チューナー）：TUNER 端子に接続されたチューナーを選択します。

④ **ヤマハ製チューナー操作キー**

ヤマハ製チューナーを操作します。チューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

ヤマハ製チューナーであっても、一部対応していない機器があります。

⑤ **⏻ CD キー**

ヤマハ製 CD プレーヤーの電源を STANDBY/ON します。

⑥ **⏏ OPEN（オープン）／ CLOSE（クローズ）（開閉）キー**

ヤマハ製 CD プレーヤーのディスクトレイを開閉します。CD プレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

⏻ CD キーや⏏ OPEN/CLOSE キーは、ヤマハ製 CD プレーヤーであっても、一部対応していない機器があります。

⑦ **CD プレーヤー操作キー**

ヤマハ製 CD プレーヤーを操作します。CD プレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

▻ （再生）

再生を開始します。

▯▯ （ポーズ）

再生を一時停止します。▻または ▯▯ を押すと再生が始まります。

□ (停止)

再生を停止します。

⏮ / ⏭ （頭出し）

トラックの頭出しをします。

SOURCE（ソース）

ヤマハ製 CD プレーヤーで再生したいソースを選択します。キーを押すたびに再生するソースが切り替わります。

LAYER（レイヤー）

ハイブリッドスーパーオーディオ CD の再生レイヤーを、スーパーオーディオ CD と CD 間で切り替えます。

ご注意

ヤマハ製CD プレーヤーであっても、一部対応していない機器があります。

⑧ **VOLUME（ボリューム）+/ −（音量 +/ −）キー**

音量を調節します。

ご注意

入力ソースに MAIN DIRECT を選択しているときは、リモコンの VOLUME +/ −キーの調節は音量に影響しません。この場合の音量は、MAIN IN 端子に接続された外部アンプ側で調節してください。

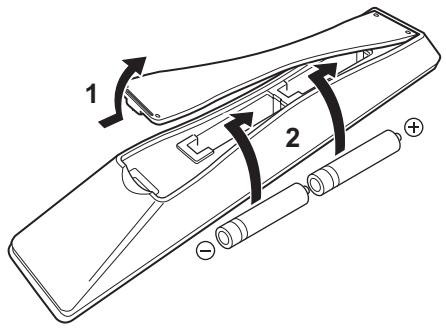
⑨ **MUTE（ミュート）キー**

音量が現在のレベルから約 20dB 低下します。再度押すとオーディオ出力の音量は元のレベルに戻ります。リモコンの VOLUME+/ −キーを押すと、ミュート機能は解除されます。

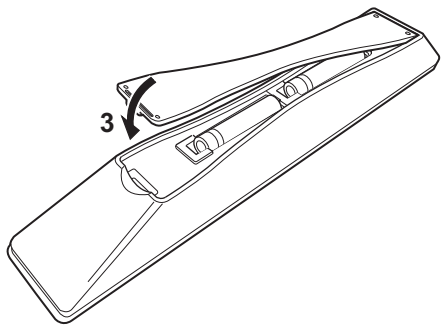
■ リモコンに電池を入れる

1 電池カバーを外す。

2 電池ケース内に記載されている極性（＋／－）に従って、単４乾電池（2 本）を電池ケースに挿入する。



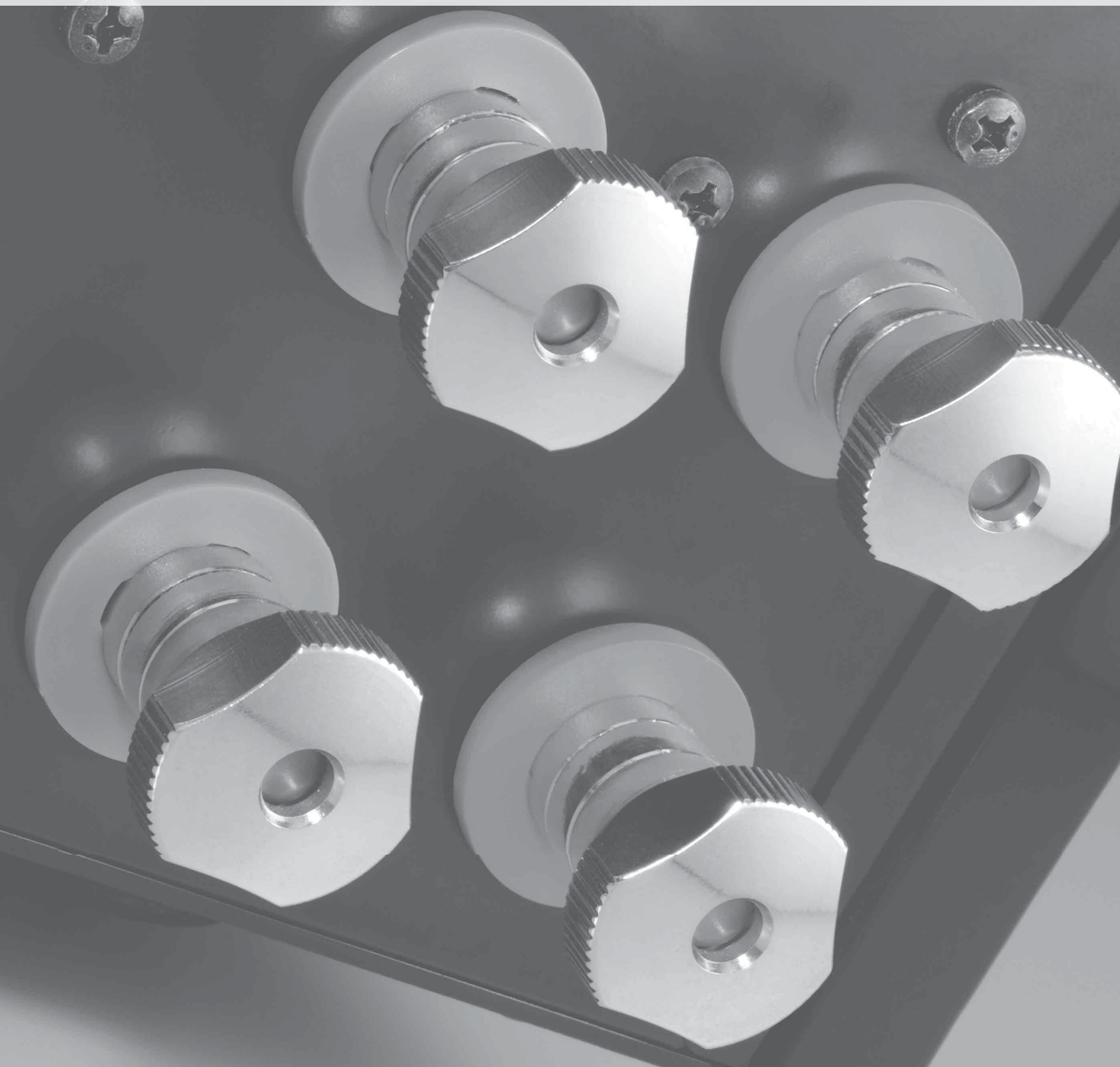
3 電池カバーを装着する。



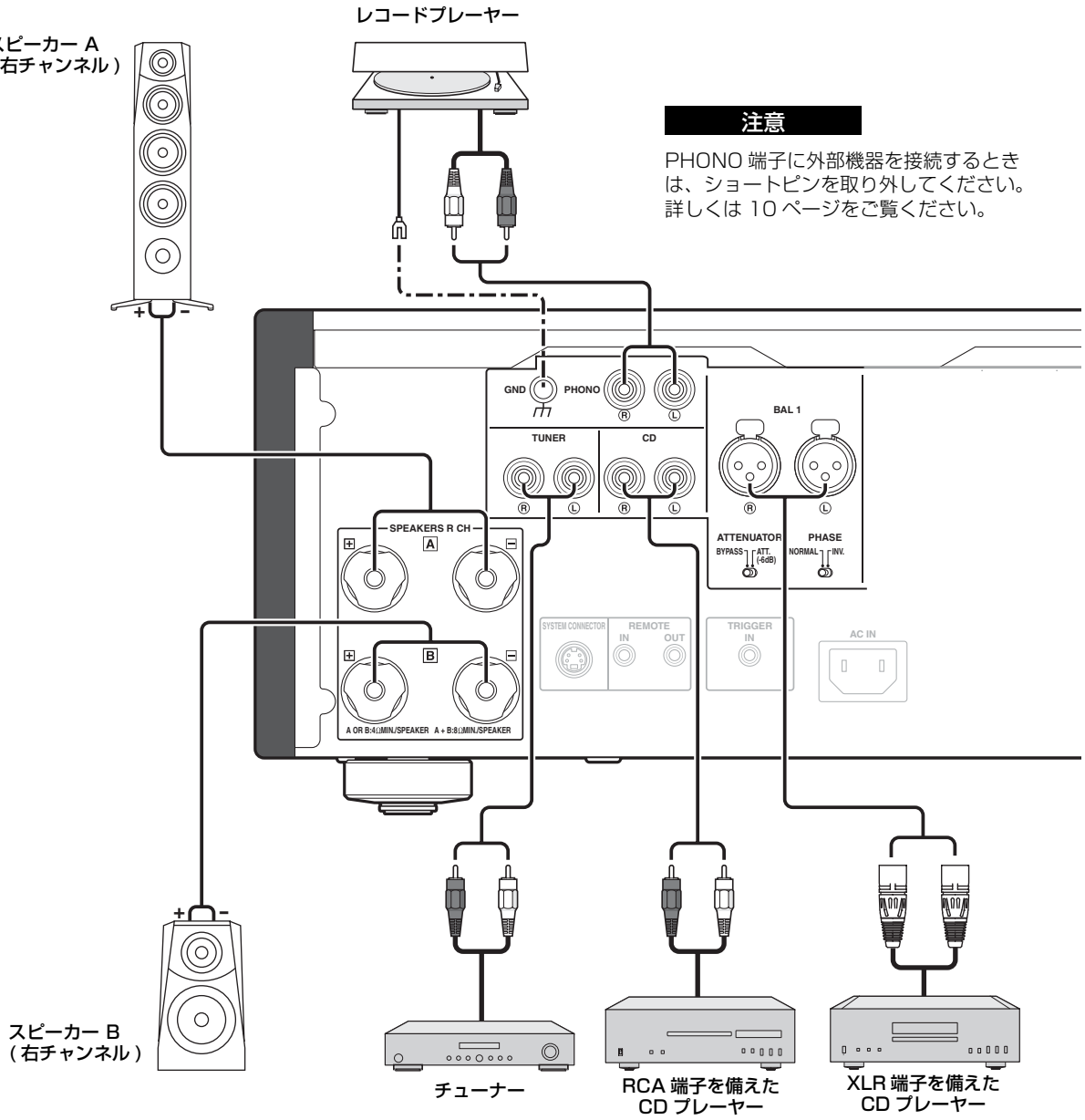


A-S3000
接続

この章では、A-S3000、各スピーカー、ソース機器間の接続について説明しています。



接続

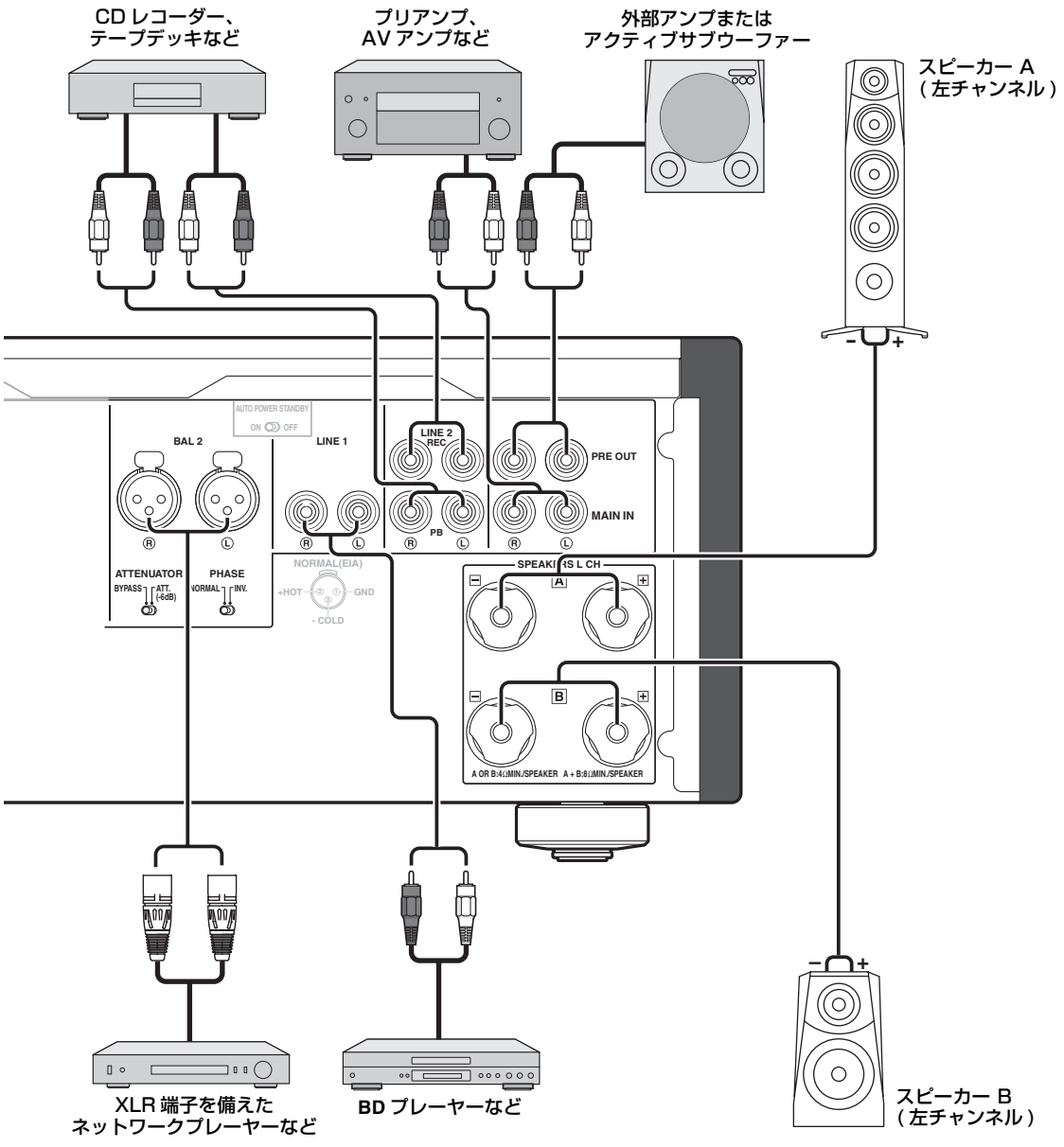


注意

PHONO 端子に外部機器を接続するときは、ショートピンを取り外してください。詳しくは 10 ページをご覧ください。

注意

- スピーカーケーブルの裸線部は、他のスピーカーケーブルの裸線部または本機の金属部分とは接触させないでください。本機やスピーカーが損傷することがあります。
- すべてのケーブルは、L（左）は L に、R（右）は R に、「+」は「+」に、「−」は「−」に正しく接続してください。接続を誤るとスピーカーからは音が出ません。また、スピーカーの極性を誤って接続すると音が不自然になり、低音が不足して聞こえます。個々の機器の接続については各機器の取扱説明書も参照してください。
- スピーカー以外の機器の接続には RCA コネクター式のアンバランスケーブルを使用します。ただし、本機のバランス端子（BAL 1 または BAL 2）に XLR タイプのバランス出力端子を備えた CD プレーヤーやネットワークプレーヤーなどを接続する場合、XLR バランスケーブルを使用します。
- レコードプレーヤーを接続する場合は、信号のノイズを低下させるため、GND 端子も接続してください。ただしレコードプレーヤーによっては、GND 端子を接続しないほうがノイズが低下する場合もあります。



注意

- A-S3000 のパワーアンプはフローティングバランスアンプなので、下記のように接続できません。
  - 左右チャンネルの「+」端子どうしや「−」端子どうしを接続する（図1）。
  - 左チャンネルの「−」端子と右チャンネルの「−」端子を逆接続（クロス接続）する（図2）。
  - 左右チャンネルの「−」端子と本機リアパネルの金属部分とを接続または接触させる。
- アクティブサブウーファーをSPEAKERS L/R CH端子に接続しないでください。サブウーファーは本機の PRE OUT 端子に接続してください。
- MAIN IN 端子に接続した場合、本機の音量は固定となるため、音量調整機能がない CD プレーヤーなどを接続しないでください。大きな音で動作し、本機やスピーカーが故障する可能性があります。

図1

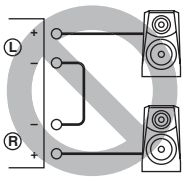
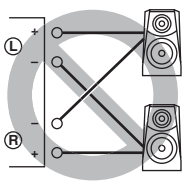


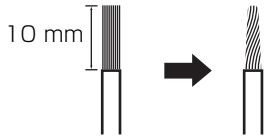
図2



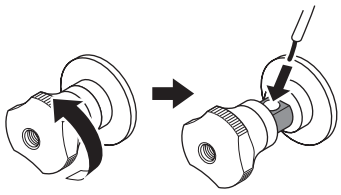
接続

■ スピーカーを接続する

1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を約 10mm はがし、芯線をしっかりとよじる。



2 スピーカー端子のつまみを左に回してねじをゆるめ、横の穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。



3 つまみを右に回して、締め付ける。

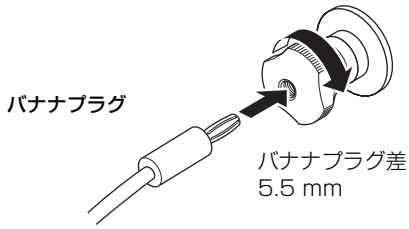


注意

- スピーカー端子をゆるめるときにつまみを回し過ぎると、つまみが本機から外れてしまいます。外れたつまみを誤ってお子さまが飲み込むおそれがありますのでご注意ください。
- スピーカー端子が金属製ラックに触れるとショートし、本機が故障するおそれがあります。スピーカー端子がラックに触れないように十分な距離を取って設置してください。
- 本機の電源が ON のときにスピーカー端子に触れないでください。感電するおそれがあります。

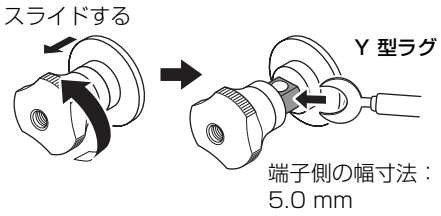
■ バナナプラグを接続する

バナナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。



■ Y 型ラグを接続する

1 スピーカー端子のつまみを左に回してねじをゆるめ、リング部と基部の間に Y 型ラグをはさむ。



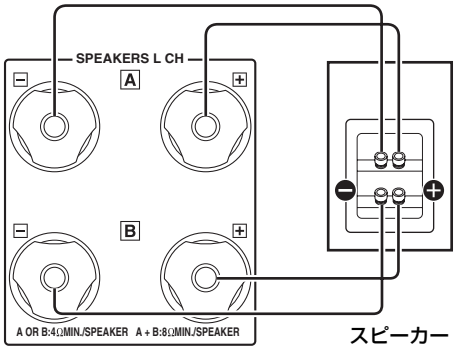
2 つまみを右に回して、締め付ける。



■ バイワイヤリング接続する

バイワイヤリング接続により、ウーファーを中高音部から分離させることができます。バイワイヤリング接続対応スピーカーには４個の接続端子があり、これらの２組の端子によってスピーカーを独立した２部分に分割できます。この接続では、中高音ドライバーを１組の端子に、低音ドライバーをもう１組の端子に接続します。

バイワイヤリング接続の例（左チャンネル）



A-S3000 リアパネル

重要

２組のスピーカー（A+B）を使用する場合は、インピーダンスが8 Ω 以上のスピーカーをお使いください。

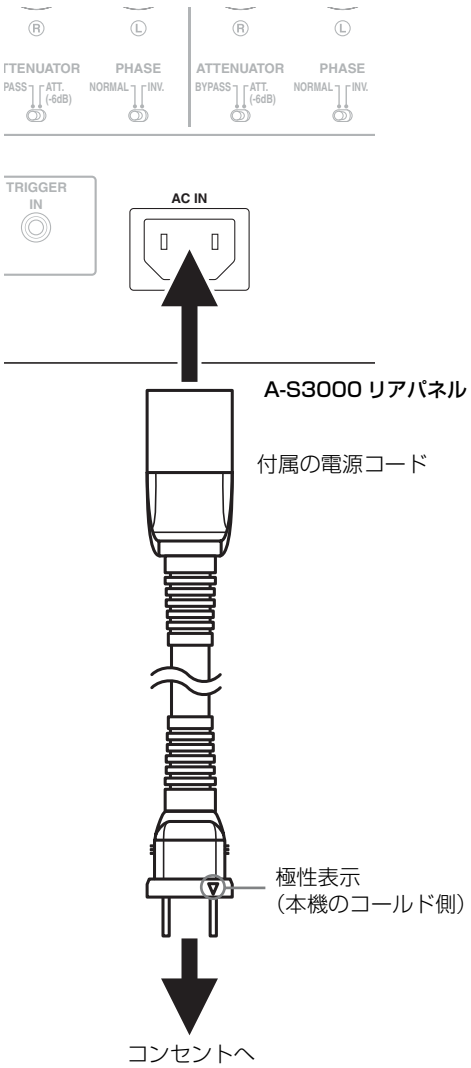
ご注意

LPF（ローパスフィルタ）と HPF（ハイパスフィルタ）のクロスオーバーを分離するため、ショーティング用のバーやブリッジは取り外してください。

バイワイヤリング接続を利用するには、フロントパネルの SPEAKERS セレクターを A+B BI-WIRING にします。

■ 電源コードを接続する

すべての接続が終了したら、電源コードを本機の AC IN 端子に差し込み、家庭用 AC100 V、50/60 Hz のコンセントに電源プラグを接続します。



- 付属の電源コードの▽マークは極性（本機のコールド側）を示しています。
- 接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがあります。お好みの向きで接続してください。

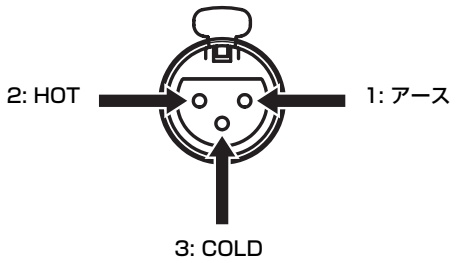
■ BAL 1/BAL 2 端子に接続する

XLR コネクター式のバランス出力端子を備えた CD プレーヤーやネットワークプレーヤーなどを接続します。
接続する機器によって、各端子の下にある ATTENUATOR スイッチ、PHASE スイッチを次のように切り替えてください。

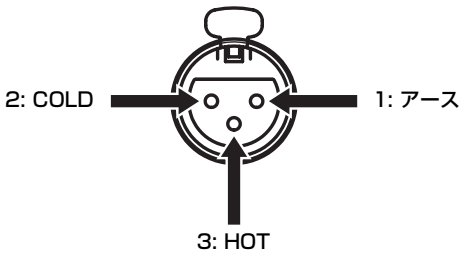
ATTENUATOR（アッティネーター）スイッチ：
バランス入力端子の許容入力レベルを切り替えます。接続した機器からの音が歪む場合は、スイッチを ATT.（− 6dB）に切り替えてください。

PHASE（フェーズ）スイッチ：
バランス入力端子の HOT ピンの位置（2 番 HOT ／ 3 番 HOT）を切り替えることができます。

NORMAL（2 番 HOT）



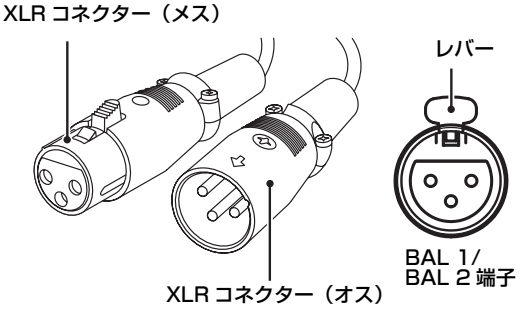
INV.（3 番 HOT）



接続機器のバランス出力端子の HOT ピンの位置は、機器に付属の取扱説明書で確認してください。

YAMAHA のプレーヤーは NORMAL（2 番 HOT）です。

XLR コネクター：
接続の際には必ずピンどうしを合わせ、XLR コネクター（オス）を「カチッ」と音がするまで差し込みます。接続を外す際は、BAL 1 または BAL 2 端子のレバーを押しながら XLR コネクター（オス）を抜きます。



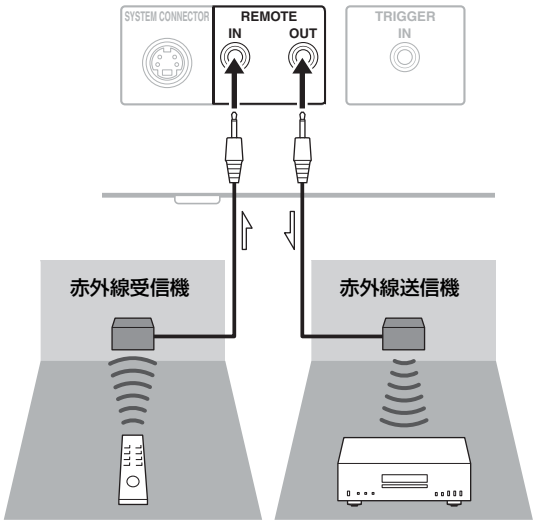
ご注意

XLR バランス接続を使用するときは、入力ソースを BAL 1 または BAL 2 にしてください。

■ 別の部屋から本機を操作する

赤外線受信機／送信機を本機の REMOTE IN/OUT 端子に接続すれば、付属のリモコンで、別の部屋から本機や外部機器を操作できます。

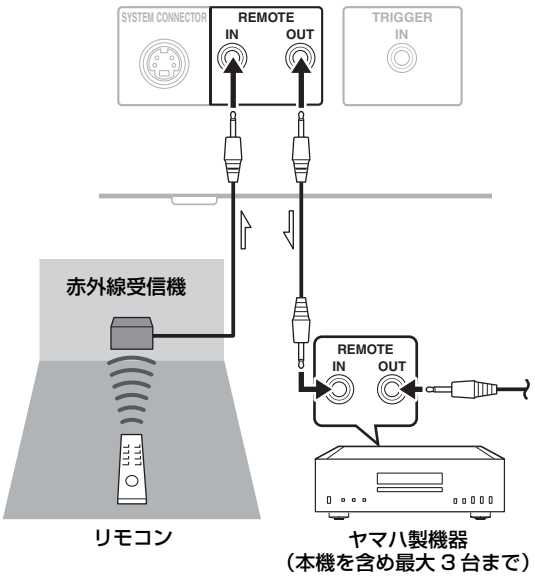
A-S3000 リアパネル



■ ヤマハ製機器間でリモート接続する

本機のようにリモート接続に対応している別のヤマハ製機器をお使いの場合は、赤外線送信機は不要です。赤外線受信機とモノラルミニプラグケーブルを使って、REMOTE IN/OUT 端子を接続するだけで、リモコン信号を転送できます。
接続できるヤマハ製機器は、本機を含めて 3 台までです。

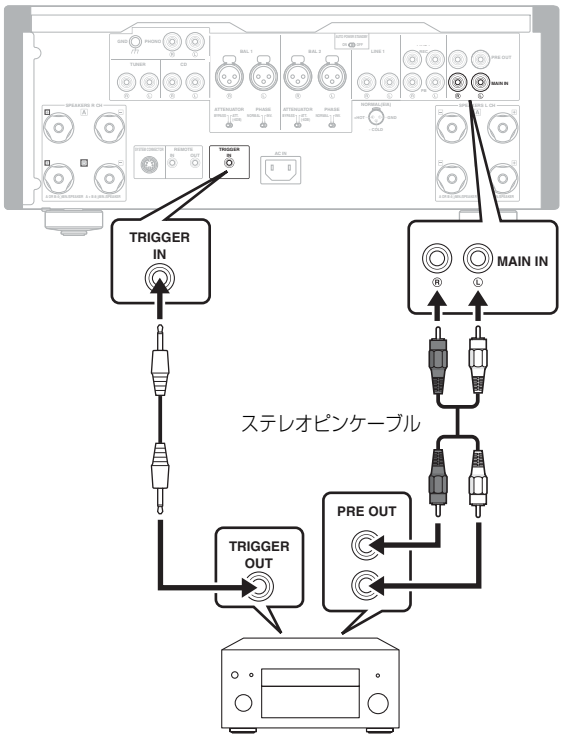
A-S3000 リアパネル



■ トリガー機能対応のヤマハ製 AV レシーバーなどを接続する

ヤマハ製 AV レシーバーなど接続機器の操作（電源オン（ON）／ STANDBY、MAIN DIRECT 入力選択）に連動して本機を制御することができます。PRE OUT 端子と TRIGGER OUT 端子が装備されたヤマハ製 AV レシーバーを、下図のように接続します。

A-S3000 リアパネル



TRIGGER OUT 端子、
PRE OUT 端子装備の
ヤマハ製 AV レシーバーなど

接続機器の電源をオンにすることによって、本機の電源を ON にすることができます。同時に本機の入力が MAIN DIRECT に切り替わります。
また、本機の入力ソースに MAIN DIRECT を選択しているときは、接続機器の電源をオフにすると本機も連動して STANDBY になります。

ご注意

MAIN IN 端子に接続する前に本機の電源を OFF にしてください。
本機の電源スイッチが OFF のときは連動しません。

A-S3000
仕様

この章には A-S3000 の技術仕様を掲載しています。



仕様

パワーアンプ部

- 定格出力
  （8 Ω、20 Hz ～ 20 kHz、0.07% THD）
  ..... 100 W + 100 W
  （4 Ω、20 Hz ～ 20 kHz、0.07% THD）
  ..... 150 W + 150 W
- ダイナミックパワー（IHF）
  (8 Ω)..... 120 W + 120 W
  (6 Ω)..... 150 W + 150 W
  (4 Ω)..... 200 W + 200 W
  (2 Ω)..... 300 W + 300 W
- 実用最大出力 (JEITA)
  （1 kHz、10% THD、8 Ω）..... 130 W + 130 W
  （1 kHz、10% THD、4 Ω）..... 210 W + 210 W
- 出力帯域幅
  （MAIN L/R 動作時、0.1% THD、45 W、8 Ω）
  ..... 10 Hz ～ 60 kHz
- ダイナミックヘッドルーム
  （8 Ω）..... 0.79 dB
- ダンピングファクタ
  （1 kHz、8 Ω）..... 250 以上
- 最大許容入力電圧
  PHONO MM (1 kHz、0.003% THD)..... 50 mVrms
  PHONO MC (1 kHz、0.003% THD)..... 2.3 mVrms
  CD 他 (1 kHz、0.5% THD)..... 2.80 Vrms
  BAL 1/BAL 2（1 kHz、0.5% THD)
  (BYPASS) ..... 2.80 Vrms
  (ATT. − 6 dB) ..... 5.60 Vrms
- 定格出力電圧／出力インピーダンス
  REC OUT..... 200 mVrms/1.5 kΩ
  PRE OUT..... 1.0 Vrms/1.5 kΩ
- 周波数特性
  CD 他 （5 Hz ～ 100 kHz）..... + 0 / − 3 dB
  CD 他 （20 Hz ～ 20 kHz）..... + 0/ − 0.3 dB
- RIAA イコライザー偏差
  PHONO MM ..... ± 0.5 dB
  PHONO MC ..... ± 0.5 dB
- 全高調波歪率
  PHONO — REC OUT
  MM （20 Hz ～ 20 kHz、1.2 mVrms）..... 0.005%
  MC （20 Hz ～ 20 kHz、1.2 mVrms）..... 0.02%
  BAL1/BAL 2 — SPEAKERS
  （20 Hz ～ 20 kHz、50 W / 8 Ω）..... 0.025%
  CD 他 — SPEAKERS
  （20 Hz ～ 20 kHz、50 W / 8 Ω）..... 0.025%
- S/N 比（IHF-A ネットワーク）
  PHONO MM （入力ショート、5 mVrms）
  ..... 93 dB
  PHONO MC （入力ショート、500 μVrms）
  ..... 85 dB
  CD 他（入力ショート、200 mVrms）..... 103 dB
- 残留ノイズ （IHF-A ネットワーク）..... 33 μVrms

コントロール部

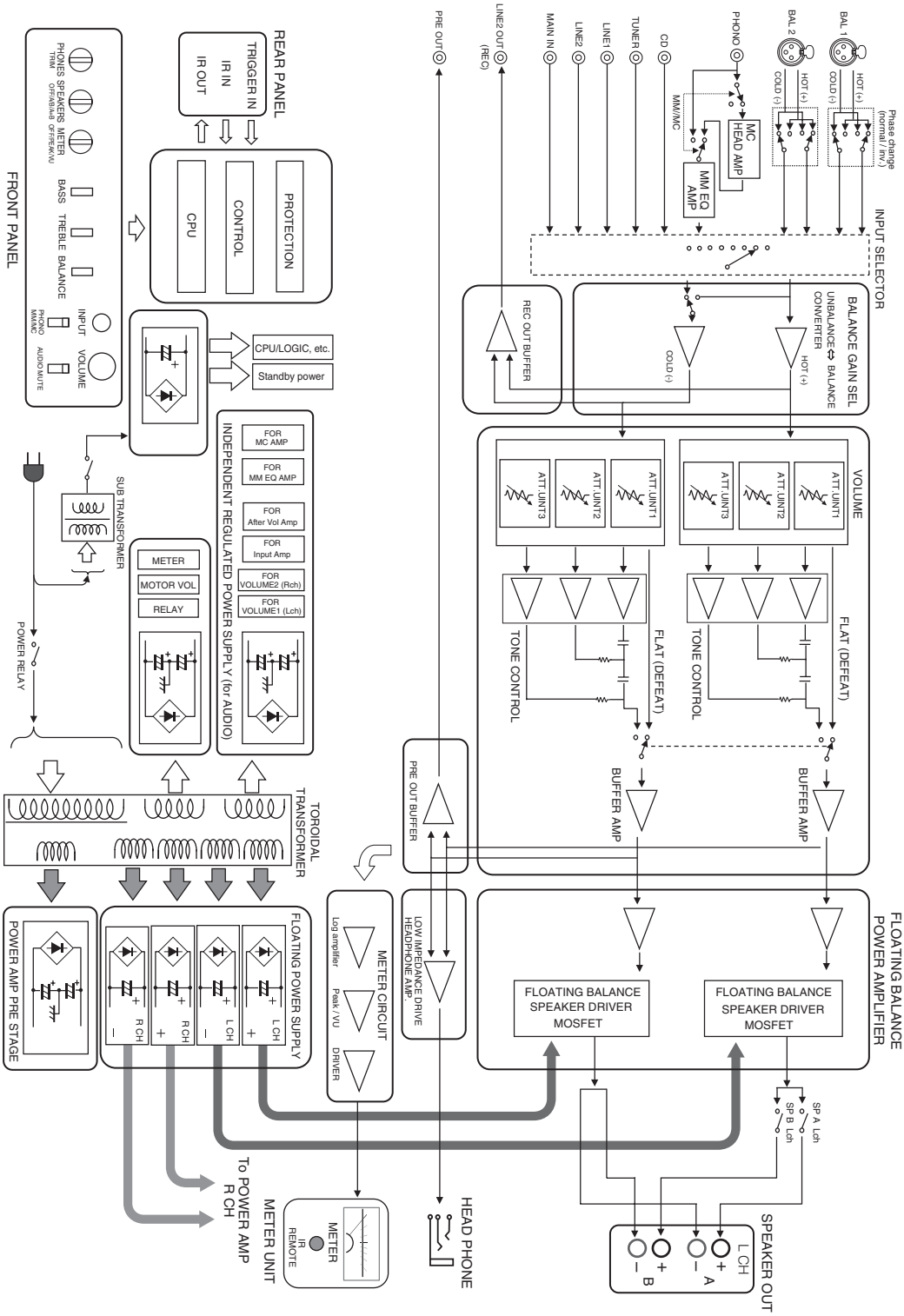
- 入力感度／入力インピーダンス
  PHONO MM .....2.5 mVrms / 47 kΩ
  PHONO MC ..... 100 μVrms / 50 Ω
  CD 他 ..... 200 mVrms / 47 kΩ
  MAIN IN ..... 1 Vrms / 47 kΩ
  BAL 1/BAL 2 ..... 200 mVrm / 100 kΩ
- ヘッドホン定格出力
  CD 他（1 kHz、32 Ω、0.2% THD）
  ..... 70 mW + 70 mW
- チャンネルセパレーション
  PHONO MM
  （入力ショート、1 kHz/10 kHz、− 30 dB）
  ..... 90/77 dB 以上
  PHONO MC
  （入力ショート、1 kHz/10 kHz、− 30 dB）
  ..... 66/77 dB 以上
  CD 他（入力、5.1 kΩ 終端、1 kHz/10 kHz）
  ..... 74/54 dB 以上
- トーンコントロール特性
  BASS
  Boost/Cut （50 Hz）..... ±9 dB
  ターンオーバー周波数 ..... 350 Hz
  TREBLE
  Boost/Cut （20 kHz）..... ±9 dB
  ターンオーバー周波数 ..... 3.5 kHz

総合

- 電源電圧 ..... AC 100 V、50/60 Hz
- 消費電力 ..... 350 W
- 待機電力 ..... 0.3 W
- 寸法 （W x H x D）..... 435 x 180 x 464 mm
- 質量 ..... 24.6 kg

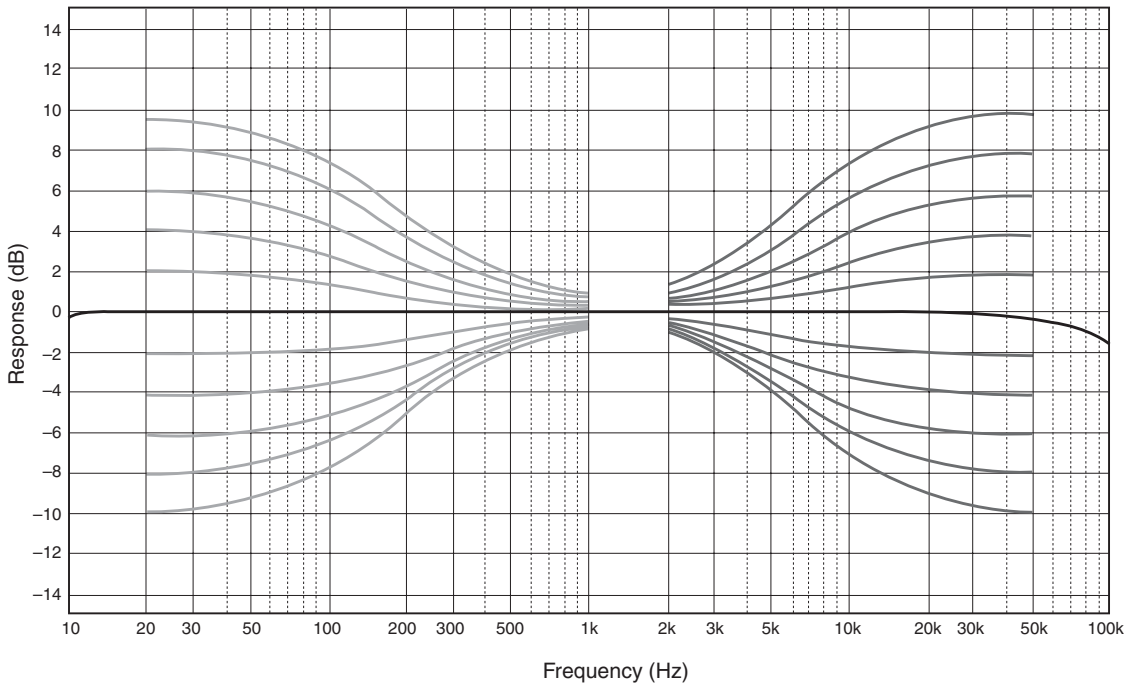
* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

■ ブロックダイヤグラム

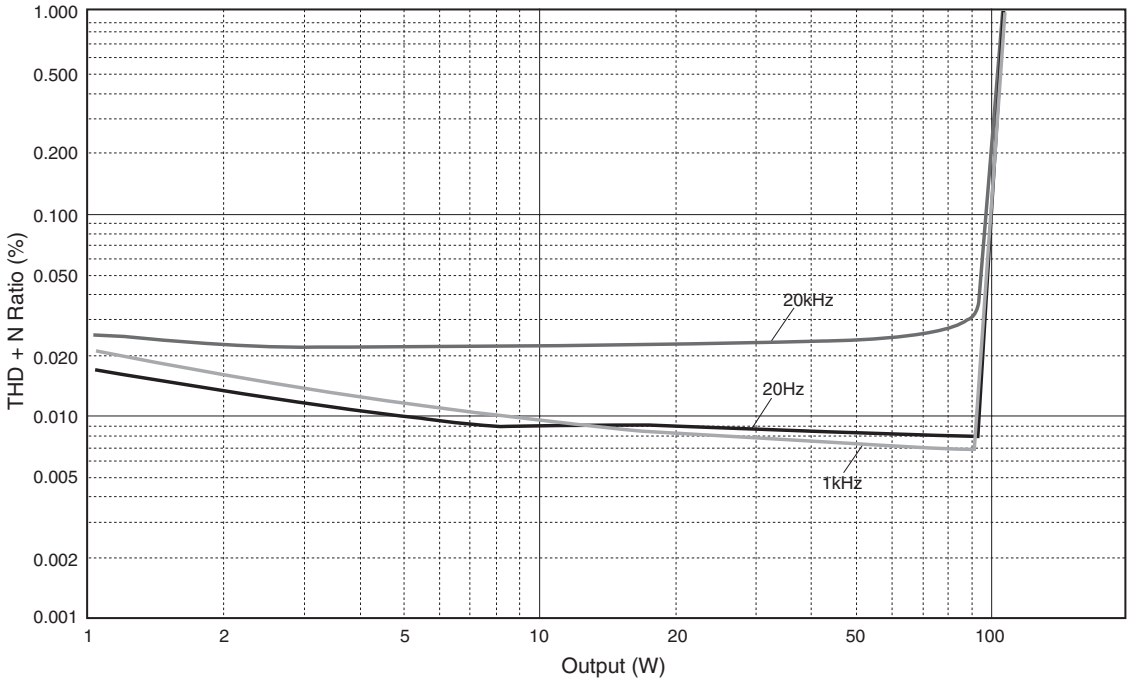

FRONT PANEL
PHONES
SPEAKERS
METER
TRIM
BASS
TREBLE
BALANCE
INPUT
VOLUME
PHONO MM/MC
AUDIO MUTE
REAR PANEL
TRIGGER IN
IR IN
IR OUT
CPU
CONTROL
PROTECTION
CPU/LOGIC, etc.
Standby power
INDEPENDENT REGULATED POWER SUPPLY (for AUDIO)
FOR MC AMP
FOR MM EQ AMP
FOR After Vol Amp
FOR Input Amp
FOR VOLUME2 (Rch)
FOR VOLUME1 (Lch)
METER
MOTOR VOL
RELAY
SUB TRANSFORMER
POWER RELAY
TOROIDAL TRANSFORMER
FLOATING POWER SUPPLY
R CH
L CH
POWER AMP PRE STAGE
METER CIRCUIT
Log amplifier
Peak / VU
DRIVER
To POWER AMP R CH
METER UNIT
METER
IR REMOTE
PRE OUT
LINE2 OUT (REC)
MAIN IN
LINE2
LINE1
TUNER
CD
PHONO
MM/MC
MC HEAD AMP
MM EQ AMP
BAL 2
BAL 1
HOT (+)
COLD (-)
Phase change (normal / inv.)
INPUT SELECTOR
BALANCE GAIN SEL
UNBALANCE ⇔ BALANCE CONVERTER
REC OUT BUFFER
VOLUME
ATT_UNT1
ATT_UNT2
ATT_UNT3
TONE CONTROL
FLAT (DEFEAT)
BUFFER AMP
PRE OUT BUFFER
LOW IMPEDANCE DRIVE HEADPHONE AMP.
FLOATING BALANCE POWER AMPLIFIER
FLOATING BALANCE SPEAKER DRIVER MOSFET
SP A Lch
SP B Lch
SPEAKER OUT
L CH
A
B
HEAD PHONE

仕様

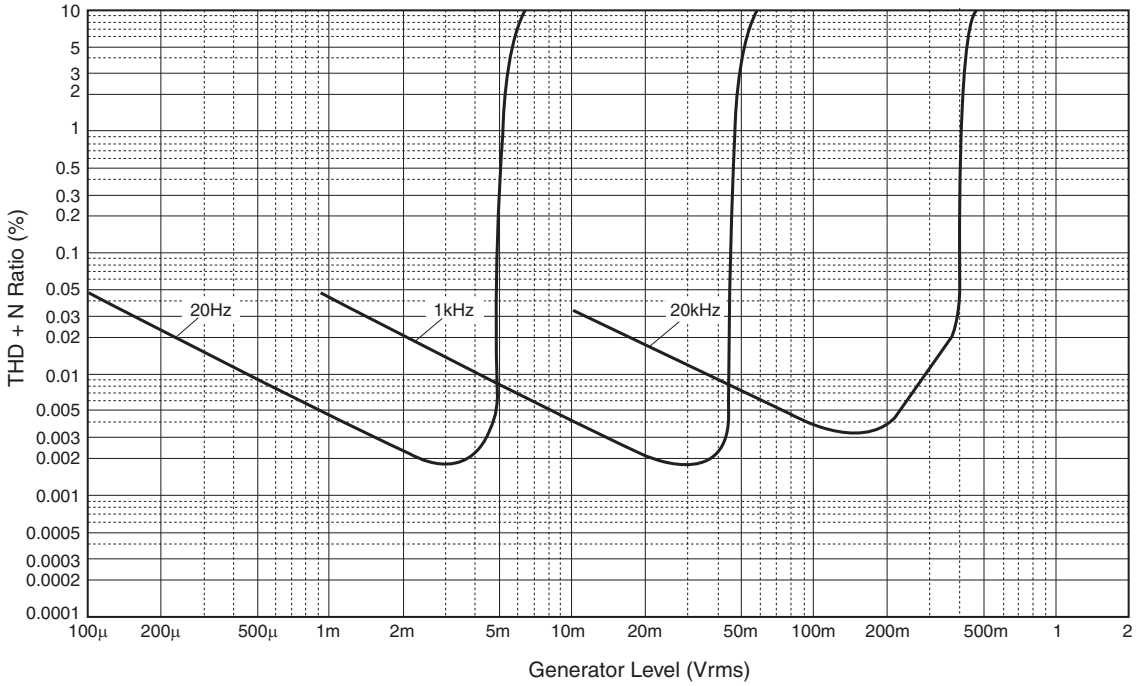
■ トーンコントロール特性



■ 全高調波歪率



■ 全高調波歪率（PHONO）



故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合、下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を OFF にし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	参照ページ
電源スイッチを操作しても電源が入らない	電源コードが正しく接続されていない。	電源コードを正しく差し込み直してください。	19
	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が動作した。	スピーカーケーブルが互いに接触していないか、また、スピーカーケーブルが本機リアパネルの金属部分に接触していないか確認し、本機の電源を再度 ON にしてください。	18
	本機が外部電気ショック（落雷または過度の静電気）を受けた。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください	—
STANDBY/ON インジケーターが点滅する	ショート等の原因で保護回路が動作した。	スピーカーケーブルが互いに接触していないか、また、スピーカーケーブルが本機リアパネルの金属部分に接触していないか確認し、本機の電源を再度 ON にしてください。	18
	本機内部の回路に異常がある。	電源プラグを抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ販売店にお問い合わせください	—
電源を ON にすると INPUT インジケーターが点滅し、音量が下がる	ショート等の原因で保護回路が動作した。	スピーカーケーブルが互いに接触していないか、また、スピーカーケーブルが本機リアパネルの金属部分に接触していないか確認し、本機の電源を再度 ON にしてください。	18
音声が出ない	ステレオピンケーブルが正しく接続されていない。	ステレオピンケーブルを正しく接続してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	16
	入力が正しく選択されていない。	フロントパネルの INPUT セレクター（またはリモコンの入力選択キー）で入力を選択し直してください。	8、12
	SPEAKERS セレクターが OFF になっている。	SPEAKERS セレクターを OFF 以外に切り替えてください。	7
	スピーカーケーブルが正しく接続されていない。	スピーカーケーブルの接続を確認してください。	18
音声が突然出なくなる	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が動作した。	スピーカーケーブルが互いに接触していないか、また、スピーカーケーブルが本機リアパネルの金属部分に接触していないか確認し、本機の電源を再度 ON にしてください。	18
音量が調節できない	入力ソースに MAIN DIRECT が選択されている。	接続機器側の音量を調節してください。 または、MAIN IN 端子以外の端子に接続し入力ソースを切り替えてください。	8、9
片側のチャンネルの音がほとんど出ない	再生機器やスピーカーが正しく接続されていない。	接続を確認してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	16
	左右のスピーカーバランスが正しく調節されていない。	BALANCE つまみで左右のスピーカーバランスを適切に調節してください。	7
低音の再生不良	スピーカーやアンプの＋ / －が逆に接続されている。	＋ / －を確認して、正しく接続してください。	16
ハム音が出る	ステレオピンケーブルが正しく接続されていない。	ステレオピンケーブルを正しく接続してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	16
	レコードプレーヤーのアースが GND 端子に接続されていない。	アースコードを本機の GND 端子に接続してください。	16

症状	原因	対策	参照ページ
BAL1/BAL2（バランス入力）端子に接続した機器の再生音が歪む	バランス入力端子の許容入力レベルを超えています。	接続する再生機器のバランス XLR 出力がアンバランス RCA 端子の 2 倍の場合は、端子の下にある ATTENUATOR スイッチを ATT.（−6dB）に切り替えてください。	20
BAL1/BAL2（バランス入力）を選択したとき低音に立体感がない	極性が正しくない。	PHASE スイッチで極性を正しく設定してください。	20
本機に接続している CD プレーヤーやテープデッキにヘッドホンを接続して聴いていると音が歪む	本機の電源が OFF になっている。	本機の電源を入れてください。	—
レコードの再生音が小さい	フロントパネルの PHONO スイッチの設定が間違っている。	レコードプレーヤーのカートリッジの種類に合わせて、PHONO スイッチを MM または MC の位置に合わせてください。	9
リモコンが操作できなかったり、正常に動作しない	リモコンの操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から6 m 以内、角度 30° 以内でリモコン操作してください。	8
	本体のリモコン受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明または本機の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて新しいものに交換してください。	14

お手入れ（本体側面の鏡面部）
ヤマハユニコンクロス（別売）のご使用をおすすめします。汚れがひどいときはヤマハピアノユニコン（別売）をご使用ください。
ヤマハユニコンクロスおよびヤマハピアノユニコンは、お近くのヤマハ特約店にてご購入いただけます。

お手入れ（鏡面部以外）
ベンジンやシンナーなどの化学薬品は使用しないでください。表面を傷めてしまうおそれがありますので、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどいときは、水で薄めた洗剤を布に含ませ、よくしぼって拭き取ってください。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。
ぜひご覧ください。

http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 9:00～18:00　土曜日 9:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

九州、沖縄、中国、四国、近畿、北陸地域にお住まいのお客様
(06) 6465-0367

修理品お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター
〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06) 6465-0374

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● **保証期間**
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**

技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1



© 2013 Yamaha Corporation

ヤマハ株式会社
Printed in Malaysia ZG15680-3